

NPO法人 九州バイオマスフォーラム

〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水字大堀 695-10 TEL 0967-35-1128 FAX 0967-35-1128
http://www.biomassml.com/kyushu.html kbf@aso.ne.jp 平成 17 年 6 月 KBF 事務局発行

九州バイオマスタウンサミットの成功に向けて

九州農政局企画調整室長 下方芳美

NPO法人九州バイオマスフォーラムの会報発刊おめでとうございます。また、今年度に入ってから、草資源流通センター懇談会、メタン消化液散布試験、傾斜地での採草機械化実験といった独自の地域住民と連携した活動もますます活発に行われており、その活動を高く評価しています。

さて、政府は、地球温暖化防止や循環型社会の形成等のため、市町村によるバイオマスタウン構想の作成とバイオマスの利活用を推進しています。2010年までに全国で500市町村で構想を策定することを目標としていますが、現時点で20構想と取組が順調に進んでいるとは言い難い状況となっています。

バイオマスの賦存量や技術的な蓄積が多いことから、九州ではその利活用について大きな可能性を秘めているため、九州農政局、九州経済産業局を始め国の出先機関や県等で構成する九州地域バイオマス関係機関連絡会議がタウン構想策定とその実現に向けた支援を行ってきていますが、5構想が策定されただけに過ぎません。そこで、関係機関連絡会議としては貴法人や（社）日本有機資源協会との共催により、バイオマス利活用に関心のある市町村を対象に、これまで策定された構想の事例発表とその意義等について理解を深めて頂くため、バイオマスサミットの開催を下記の通り予定しています。多くの市町村の担当者や関係者の参加を期待しています。

記

1. 日時：平成17年9月8日（木）13:00～16:30
2. 場所：福岡国際センター（福岡市博多区築港本町2-2）
第5回エネルギー・環境ビジネス総合展 2005 内

以上

今後の予定

8月1日～ 採草作業

夏に刈った草は、栄養豊富で家畜飼料として優れていますが、乾燥に手間がかかります。ラジコン草刈機で傾斜地の採草実験を行って、コストダウンの試算を行います。また、草を固形化して、新しい商品の開発も行います。

8月14日 両併夏祭り

南阿蘇村（旧白水村）の両併小学校でBDFを使った夏祭りを行うそうです。KBFからBDFを提供します。

8月31日 南阿蘇村で木質バイオマスセミナーを開催。

南阿蘇村の製材所で発生するバーク等の処理が問題となっています。このセミナーでバーク等の有効活用を探ります。

9月7～8日 九州バイオマスソリューション（4ページ目を参照。）

特集 バイオマスタウン

農林水産省は、「バイオマス・ニッポン」を具体化することを目的として、自治体による「バイオマスタウン構想」の策定を呼びかけています。市町村内にある資源を見直し、どのように利活用していくかというビジョンをたてよう、という趣旨です。ビジョンをたてる際には、地域の様々な組織や人々を巻き込んでいくことの大切さが強調されています。平成16年8月に募集を始めて以来、第1回目のプレスリリース（平成17年2月10日）では5自治体の「バイオマスタウン構想」が公表されました。つい先日、南大隈町などの構想も加わり、現在は20自治体のバイオマスタウン構想が公開されています(<http://www.biomass-hq.jp/biomasstown>)。

バイオマスタウン構想を発表したからといって、自治体に補助金などの直接的なメリットはそれほど大きいわけではありませんが、バイオマスの利活用を積極的に進めていくという自治体の意思や姿勢を地域内外にアピールすることは、目に見えない大きなメリットがあります。バイオマスの利活用を進めていくためには、地域住民を含めて多くの関係者と連携して進めていく必要があります。バイオマスタウン構想を発表することで、地域内外の関係者とビジョンを共有し、連携を進めていける可能性があります。九州バイオマスフォーラムはタウン構想の策定による意義を積極的にとらえ、この動きを広めるために「バイオマスタウンサミット」の開催を提案いたしました。このサミットは九州農政局やJORA（社団法人日本有機資源協会）とKBFの共同開催という形で、9月8日に福岡で行います（今後の予定参照）。

会報創刊号を記念して、バイオマスタウン構想をいち早く策定した南阿蘇村（旧白水村が策定）へのインタビューを行いました。大掛かりな構想が多かった第1回目の発表の中では、純粋に「ビジョン」を掲げたという点で注目を浴びた白水村。その後合併を経て、新しい南阿蘇村がどのようにバイオマスタウンのまちづくりを考えているかを聞いてみました。

南阿蘇村のバイオマスタウン構想について

南阿蘇村 企画課 今村課長補佐、安達係長、長野主事

Q. バイオマスタウン構想策定のきっかけは？

A. 白水村が新エネルギービジョンを策定したときに、バイオマスへの関心が高まったため、新エネルギービジョンを元にタウン構想へと発展させました。

Q. 町村合併後のタウン構想はどうなっていますか？

A. 白水村をベースに長陽・久木野エリアの資源や可能性を加味してまとめ直しています。8月中には新タウン構想の完成を予定しています。9月のバイオマスタウンサミットで発表します。（安達係長）

Q. バイオマスタウン実現へ向けた具体的な取り組みは？

A. 合併して間もないため、H17は準備の年です。構想の具体化に向けて話し合うための環境協議会（仮）の発足準備をしつつあります。これには、KBFのERI理事長も参加していただく予定です。今後は、協議会で勉強会も開いていきたいです。また村の広報誌に「バイオマスってなに？」をテーマにした連載を行う予定ですが、こちらの原稿もKBFのERI理事長にお願いしています。

～南阿蘇鉄道*でのBDF活用について～

平成17年3月頃、南阿蘇鉄道へのBDF利用実験を提案し、関係者と協議を行いました。実現できませんでした。その理由は、次のとおりです。

公共交通機関としてのリスクが大きい → (今後の対応策) → BDFの品質向上、損害保険等
人員不足 → (今後の対応策) → 役場、NPOの協力

*南阿蘇鉄道株式会社(社長は高森町長、副社長は南阿蘇村長の第3セクター)

～役場のバスでBDF走行実験～

中坊事務局長から、役場のバスでBDFを使ってみませんかとの提案に「(笑顔で元気よく) やってみましょうかね!」と安達係長の返事。「うまくいけば、バスやゴミ収集車へ利用したいですね。」(安達係長)

Q. KBFとの連携は?

A. 今年度KBFが企画しているストローベイルハウスづくりのワークショップに、村の土地を提供しようといくつか候補地を考えています。南阿蘇村で刈った草で本当に家が建ったら、エネルギーだけではなくバイオマスのマテリアル利用も見出せると期待しています(安達係長)

Q. 新庁舎の建設予定があると聞いていますが、バイオマス利活用施設の導入可能性は?

A. 新庁舎は2～3年後に建設の予定です。バイオマスについては、チップボイラーでの冷暖房施設を導入することを検討しています。また、太陽光発電や雨水利用も取り入れ、環境に優しい庁舎にしたいです。また公用車の燃料としてBDFも使ってみたいです。

(取材/永利・中坊、文/ERI)

7月26日 液肥散布実験結果報告

説明会および見学会には約25名の参加があり、山口県からはるばるこられた方もおられました。この実験には、(株)西原商店・(有)新星工業・野上信隆氏関係者としては、熊本県環境政策課、熊本県阿蘇地域振興局、南阿蘇村、阿蘇市、阿蘇広域行政事務組合、JA阿蘇、プラントメーカー5社(西原商店・協和エクシオ・神鋼環境ソリューション・栗本鐵工所・明電舎)、マスコミ関係者などが集まりました。

メタン発酵消化液を、水稻の追肥として使うことができれば、追肥作業の省力化につながるだけでなく、化学肥料の使用量削減にもつながります。秋には、この水田で取れたお米の試食会を開く予定です。



バキュームカーから液肥をタンクに移している様子。
(有)新星工業に液肥散布のできるバキュームカーを実験のために提供して頂きました。また、メタン発酵消化液は(株)西原商店に提供して頂きました。



液肥を水口から流し込む様子。
液肥(メタン発酵消化液)を水で50倍に希釈する割合で、水口から水を流しながら液肥を投入しました。20aの水田面積で、合計3トンの液肥を使いました。

九州バイオマスソリューションの未来

～史上最多のバイオマス講師陣～ 会場：福岡国際センター

	B会場	F会場	G会場
9月7日 11:00～11:45	バイオマスサミット パート1 13:00～16:45 講師： NEDO 三浦 俊泰 九州経済産業局 村上 直美 ドイツ・カッセル大学 マリアネ カハツシグイ 教授 コディネーター：熊本大学 木田建次	廃棄物バイオマスの持続可能なマテリアルリサイクルの提案 大分大学工学部 助教授 酒井 謙二	リサイクルパークの事例紹介 九州産廃(株) 事業室室長 持永 義孝
	12:00～12:45	バイオマスリサイクルの最前線(仮) 三井化学 八木 正	バイオディーゼル 世界の現状と日本の可能性 日本植物燃料 合田 真
	13:00～16:45		
9月8日 11:00～11:45	愛知万博会場における生ごみバイオガス化について 日本ガイシ(株) 坪井 博和	乾式メタン発酵を用いた固形有機性廃棄物の高効率メタン発酵 栗田工業	焼酎粕からバイオディーゼル燃料を作る！！ 九州大学大学院農学研究院 教授 園元 謙二
	12:00～12:45	木質バイオマスガス化発電システムについて (株)明電舎	手づくりバイオディーゼル燃料 ジャーニー・トゥ・フォーエバー 平賀 緑
	13:00～13:45	バイオマスサミット パート2 バイオマスタウンサミット バイオマス資源の戦略的・総合的な利活用促進を目指して	完全嫌気発酵による有機排水・廃棄物の浄化・減量化及びE10E2回収 広島大学大学院 教授 西尾 尚道
	14:00～14:45	講師：農林水産省 資源循環室 パネリスト： 福岡県大木町、熊本県南阿蘇村、長崎県西海町、大分県日田市、鹿児島県南大隈町 コディネーター：熊本大学 木田建次 九州バイオマスフォーラム 吉田愛梨	17:00～ バイオマス交流会 (ビアパーティ) 会費：1000円
15:00～15:45			構築されたゼロエミッション屋久島モデルのこれからと未利用バイオマス資源の活用展望 鹿児島大学 名誉教授 藤田 晋輔
9月9日 11:00～11:45		島しょバイオマスの有効利用について-奄美群島を事例として- 鹿児島大学農学部 助教授 寺岡 行雄	木質バイオマスの小規模分散型発電技術の最新動向 川崎重工業(株) 平田 悟史
	12:00～12:45	熱分解ガス化によるバイオマスのエネルギー利用 九州沖縄農業研究センター 薬師堂 謙一	バイオマス利用促進に今、必要なもの バイオマス産業社会ネットワーク 泊 みゆき
	13:00～13:45	草をお金にかえるには？ 九州バイオマスフォーラム 吉田愛梨	バイオマス産業界におけるバイオマスの有効利用と地球温暖化ガスの削減 九州工業大学大学院 教授 白井 義人
	14:00～14:45	大木町がめざす循環のまちづくり～生ごみし尿をE10E2と液肥に～ 福岡県大木町 境 公雄	微生物で化学素材のエチレンを造る 崇城大学生物生命学部 教授 小川 隆平
	15:00～15:45	『生ごみを宝に！』持続可能な社会を目指して NPO法人伊万里はちがめプラン 福田 俊明	不良環境条件下における糖質複合産業の展開を目指した 高いバイオマスサトウキビの開発 九州沖縄農業研究センター 杉本 明

セミナー申し込みは日刊工業新聞社ホームページから (<http://www.nikkanseibu-eve.com/mono/>)

編 集 後 記

南阿蘇村の企画課の皆様、早くインタビューに協力して頂き、ありがとうございました。「やってみましょうかね！」という明るく元気のいいお話しぶりから、南阿蘇でのバイオマス利活用に、とっっても明るい将来が期待できますね。九州バイオマスソリューションでは九州バイオマスサミットも開催されます。バイオマスタウン構想に興味をお持ちの方、是非ご参加ください。

